

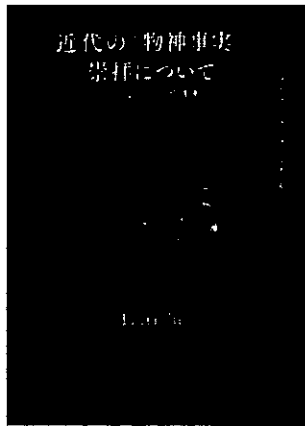
# 近代の〈物神事実〉崇拜について

ならびに「聖像衝突」

ブリュノ・ラトウール 著

荒金直人 訳

〈物神事実〉の概念が私に信仰への信仰を疑うことを可能にしたのに対して、聖像衝突の概念は、我々が聖像破壊の行為を中断してその歴史を探ることを可能にした。「物神（フェティッシュ）」とは何か。なぜ聖像／偶像は破壊されるのか。本書は、「事実」と「物神」を区別する西洋近代の存在論を批判的に再検討、「物神事実」という概念を提起した科学人類学の試みである。ここでは物神崇拜を理解する枠組みと崇拜対象の存在論を軸に、近代人が「物神」とその破壊に囚われていた根拠を明らかにした上で、宗教・科学・政治・芸術の分野を超えた近代的な主体／客体構造の解体とより柔軟な存在論を示す。



B6判 / 243頁 / 2600円  
以文社